

# 算数 第1学年 どちらが おおい

## 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

第1学年算数「どちらが おおい」の授業案を、私の学級に合わせて直してください。まず学級人数、既習の理解、理解が難しい内容、使用教科書、使える時間、具体物やICTの条件を一つずつ質問し、答えを待ってください。条件が未確認のまま児童の実態を作らないでください。中心の目標「容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べる」を保ち、発問、予想反応、支援、評価方法の対応を確認してください。配当時数とAIの配分案を区別し、教科書の本文や問題は私が必要な範囲で指定します。変更した理由を説明し、完成した指導案の全文を返してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

### 第1学年 算数科学習指導案

#### 1 単元名 「どちらが おおい」

#### 2 単元の目標

水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べることを理解する。容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べることができる。具体物・図・言葉を使って方法の理由を説明し、自分の説明を確かめ直そうとする。

#### 3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べることを理解し、学習した方法を操作や記述に表している。

〔思考・判断・表現〕①容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べる際に、具体物・図・言葉の対応を根拠として方法を説明している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる活動で、自分の説明を確かめ、友達の見方を使って修正しようとしている。

#### 4 指導上の考察

##### （1）単元について

本単元はC(1)ア(ア)・C(1)ア(イ)・C(1)イ(ア)を踏まえ、容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べることを扱う。既習を確かめる場面は「見た目から予想する」とし、そこから「予想と操作の結果を比べ説明する」へ進む。水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べるという関係を、答えを求める手順の根拠として押さえる。高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる活動は、児童が使った方法の根拠を操作や図で確かめられるため、本時の課題とする。学校の年間計画で既習の順序が異なる場合は、最初の活動で必要な理解を確認してから進める。

##### （2）児童について（学級の実態を書く）

##### （3）指導について

指導では、まず高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる場面を提示し、何が分かっていて何を求めるのかを児童と確認する。正しい方法を先に示さず、具体物や図で予想を確かめる時間を設ける。特に「背の高い容器は必ず多いと思う、すくう量を毎回変える」という誤りが出た場合は、同じ小容器の満たす位置を決め、こぼさず移して記録することで自分の説明を見直せるようにする。交流では方法の数を競わず、容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べるために使った根拠を比較する。教師は操作・ノート・口頭の説明を対応させ、表現の得意不得意によって理解の評価が変わらないようにする。

#### 5 指導と評価の計画（全4時間）

第1次 第1時：○見た目から予想する。 評価：知①（操作・記述）

第2次 第2時（第2時が本時）：○同じ容器に移して比べる。 ○高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる（本時）。 評価：思①（図と言葉を結ぶ説明・ノート）

第3次 第3時：○同じ小容器の幾つ分かで表す。 評価：知①（操作・記述）

第4次 第4時：○予想と操作の結果を比べ説明する。 評価：知①（操作・記述）／態①（初めと修正後の説明の比較）

#### 6 本時の指導（2／4（配分案））

##### （1）本時の目標

容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べることができる。

##### （2）学習過程

###### 【導入】

学習活動：○高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる。

○「何を求めるのか、今分かっていることは何かを、図や実物で示しましょう」

【めあて】容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べる。

予想される児童の反応：・前に学んだ方法を使おうとする。

・何を図に表せばよいか迷い、実物や操作で確かめようとする。

指導上の留意点：・問題の数値や実物は自校の教材と実測から選ぶ。教科書固有の問題文はこの資料に含めない。

・同じ小容器の満たす位置を決め、こぼさず移して記録する。

・答えの予想と根拠を分けて記録し、正誤を先に告げない。

###### 【展開】

学習活動：○自分の方法を操作・図・言葉で表し、使った部分に対応させる。

○「背の高い容器は必ず多いと思う、すくう量を毎回変えるという考えは、どこを確かめればよいですか」

○「あなたの説明の、図と言言葉がつながる所を示してください」

○友達の方法と比べ、同じところと違うところを記録する。

予想される児童の反応：・水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べることを、操作や図と対応させて説明する。

・最初の方法では確かめていない部分を見付け、友達の図と比べて説明を直す。

指導上の留意点：・背の高い容器は必ず多いと思う、すくう量を毎回変える場合は、答えを教えず、同じ小容器の満たす位置を決め、こぼさず移して記録する。

・考えが書けない児童には、操作した箇所印を付けてもらい、教師が短い言葉を添えてから本人に説明を戻す。

・説明できた児童には、条件を変えても方法が使えるかを問い、成立する範囲を確かめさせる。

・発表は正答の順ではなく、容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べるための根拠が比較できるものを選ぶ。

評価：思① 容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べることを、図や操作と言言葉の対応から説明している。（説明の記述・発言）

###### 【まとめ】

学習活動：○初めの考えに戻り、どこを確かめ直したかを記録する。

【まとめ】水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べる。

○自分の説明に根拠を付け足し、別の場面で確かめたいことを書く。

予想される児童の反応：・自分の図のどこを根拠にしたかを示して説明する。

・最初考えから変えた部分を記録する。

指導上の留意点：・まとめの文をそのまま写すだけにせず、自分の図のどこが根拠かを示させる。

・誤答から修正した過程も記録する。発言回数や挙手の多さで態度を判断しない。

評価：態①（振り返りと説明の修正過程）

##### （3）板書計画

上段：めあて「容器の形に左右されず、同じ入れ物でかさを比べる」。

左：高さや太さが違う容器の水を、同じ容器に移して比べる場面の図。既知の量と求める量を区別して示す。

中央：児童の操作・図・言葉を対応させ、根拠となった部分を同じ印で結ぶ。

右：「背の高い容器は必ず多いと思う、すくう量を毎回変える」という考えと、確かめ直した結果を比較する。

下段：まとめ「水面の高さに頼らず、同じ形の入れ物に移すか、同じ小容器の幾つ分かでかさを比べる」。初めの考えから何を直したかを記す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)

[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

